

歌壇

櫻井 登世子 選

観潮楼あとの鷗外記念館残るいてふに往時しの偲しのばむ

向丘 三宅 あき子

海でなくスカイツリーの見ゆる庭観潮楼は今甦よみがえる

水道 菅井 茂子

昨日よりなお鮮やかに浮かびたる汐見の夕陽母語りき

本駒込 伊東 民子

改札の外できちんと坐りおり電話する人見上げて犬は

千石 小武山 瑤子

今もなお山茶花さざんか咲くやかさの小道父を散歩にいぎない行きし

本駒込 鈴木 たまき

出棺に紙吹雪舞い〃中村屋〃のかけ声の中棺車きゆうしやは出でぬ

水道 高木 マリ

路地ここに金木犀の香りみち我が家は城の如く見えたり

本郷 武中 一子

晩秋のけやきの枯葉はからころと春日通りを越えて飛び来る

小石川 白鳥 茂子

あのひとの上履きのまま桜坂降りてしまつて。好きなんだらう

目白台 藤本 玲未

年の瀬の池ない震ない過ぎゆきぬ一日の終りに日記帳を開けば

白山 宮田 要

初空や富士も筑波も江戸のうち

本駒込 木村 隆

街なかの静もるほどの寒さかな

千駄木 谷田貝 ちい子

気がつけば梅の実二つつけてをり

本郷 武中 一子

良きことは思ひ出の中冬籠ふゆごもり

小日向 内野 仙也

言問の橋を斜めに冬の虹

小日向 小川 浩男

梅一輪いちりん薫る墓参かな

大塚 佐々木 節子

体温にて暖まりし寢床かな

向丘 武田 時夫

万両の実のりて明るき勝手口

向丘 野尻 和子

写経筆洗い清めて年流る

春日 波多江 淑子

羽毛布団の花柄重ね夢に入る

向丘 三宅 あき子